

に各隊2～3丁の小銃及び数名の兵あるのみ、加えて該地は珊瑚礁にして散兵
壕すら掘開困難なる地形にして忽ち敵迫撃砲の集中射撃により殆ど全員戦死し
全面的に我が陣地は突破せられ、連隊本部各大隊本部又馬乗り攻撃を受け連隊
長以下殆ど全員戦死せるものの如し

33. 連隊長は之より先、佐藤准尉ほか5名をして軍旗を師団司令部に奉納せし
め師団長自ら89丁の軍旗と共に6月24日処理し奉りしと聞く、後刻師団司
令部生存者砂田軍属の語る所によれば22連隊長は6月22日戦死し、軍旗護
送の兵は途中4名戦死し司令部に到着せるものは2名なりしと言う、その氏名
を詳にすることを不得

沖縄作戦に於ける

歩兵第32連隊史実史料

昭和22年3月25日
第32軍残務整理部

史実史料目次

第1、歩兵第32連隊履歴の概要

第2、戦闘前彼我の態勢

1. 第1期 部隊出動から沖縄本島上陸まで
2. 第2期 波具知上陸より島尻地区移駐まで
3. 第3期 島尻地区移駐より戦闘開始まで

第3、戦闘経過の概要

1. 第1期 敵侵攻初期より首里地区転進時期まで
2. 第2期 首里地区転進より5月4日攻撃時期まで
3. 第3期 5月4日攻勢時期より首里付近戦闘まで
4. 第4期 島尻地区転進の爲首里付近出発より国吉付近集結まで
5. 第5期 国吉付近陣地占領より戦闘終了まで

付表第1 戦闘間戦果の概要

付表第2 戦闘別戦死人員概数表

賞詞写

第1 歩兵第32連隊経歴の概要

- | | | |
|----|------------|---|
| 1. | 昭和19年7月 7日 | 動員下令同13日動員完結 |
| 1. | 7月19日 | 駐屯地満州国東安省楊崗出発 |
| 1. | 7月23日 | 下関到着、同31日まで駐留 |
| 1. | 8月 1日 | 下関出帆、8月5日沖縄本島波具知上陸 |
| | 8月 8日 | 中頭郡山田付近到着、同地区防備隊として警備並びに陣地構築 |
| 1. | 12月10日 | 出発、11日島尻郡糸満付近到着、西地区防備隊として警備並びに陣地構築 |
| 1. | 12月11日 | 第1次編成改正 |
| 1. | 3月23日 | 敵機動部隊に依る空襲、同時甲号戦備下令 |
| 1. | 3月24日 | 敵船団現出、艦砲射撃開始 |
| 1. | 4月23日 | 連隊主力原駐屯地出発、首里戦線に前進 |
| 1. | 5月 4日 | 総攻撃に参加 |
| 1. | 5月 7日 | より同17日まで勝山付近の戦闘 |
| 1. | 5月10日 | 総攻撃の功により師団長より賞詞を授与せらる |
| 1. | 5月18日 | より同29日まで首里付近の戦闘 |
| 1. | 5月29日 | 首里出発、島尻地区転進の為途中第2次収容部隊の任務を終了、6月2日大城森付近に集結 |
| 1. | 6月 3日 | 国吉付近に陣地占領 |
| 1. | 6月18日 | 以後部隊全般敵の重囲に陥る |
| 1. | 8月28日 | 軍旗を処理し奉る |

第3 戦闘前彼我の態勢

第24師団 (第920部隊)

歩32 (第803部隊)

1. 第1期 部隊出動より沖縄本島上陸まで 自昭和19年7月19日
至昭和19年8月5日

(1) 歩兵第32連隊は光輝ある軍旗の下満州楊崗付近に於て警備に任じありしが、昭和19年7月6日動員を下令せられ同13日完結、同19日第24師団の部隊として出動を命ぜられ警備地出発、釜山に2泊後7月23日下関到着、約8日間同地に宿営、船舶輸送の準備をなし8月1日同地出帆、同月5日沖縄本島中頭郡波具知に上陸せり

楊崗出発前7月7日頃より多数の赤痢患者発生し汽車船舶中の続出を懸念せしも將兵の懸命の努力に依りその後の景況良好となり無事到着せしは望外の幸いなりき、又当時敵潜水艦の危険極めて多き時なりしに拘らず、無事に上陸するを得たるは師団の一天祐とも言うべし、楊崗出発当時の連隊は左記編成にして総兵力連隊長以下約2500名なり

連隊本部

第1大隊 長 伊東大尉 本部、1~4中隊、MG中隊、BiA1小

第2大隊 長 志村大尉 同上

歩兵砲大隊 長 満尾大尉 本部、RiA1中、TA1中

通信中隊 長 萩生中尉

2. 第2期 波具知上陸より島尻地区移駐まで 自昭和19年 8月5日
至昭和19年12月9日

(1) 連隊は波具知上陸以来中頭郡山田に連隊本部を置き左記要図の如く警備並びに陣地構築に着手す

(2) 將兵は日夜寝食を忘れ陣地構築に余念なく之が完成に急なり

(3) 教育訓練は師団、軍に於て実施せられたるほか、連隊に於いても陣地構築の間隙及び特に時間を設け計画的に凡百の戦闘を設想して之が完成に努めたり

(4) 恩納村は村長以下極めて好意を有し給ゆる便宜を供せり、殊に当山村長に於いて然り伊波付近美里村も亦概ね良好なり、金武村は村長以下極めて不良なり

(5) 10月15日 独立機関銃第3大隊 (長 金田少佐、本部と第1中隊) 配

属せらる右大隊は連隊直轄とし幸原に位置せしむ
 (6) 山田付近に於ける北地区防衛隊の軍隊区分左の如し

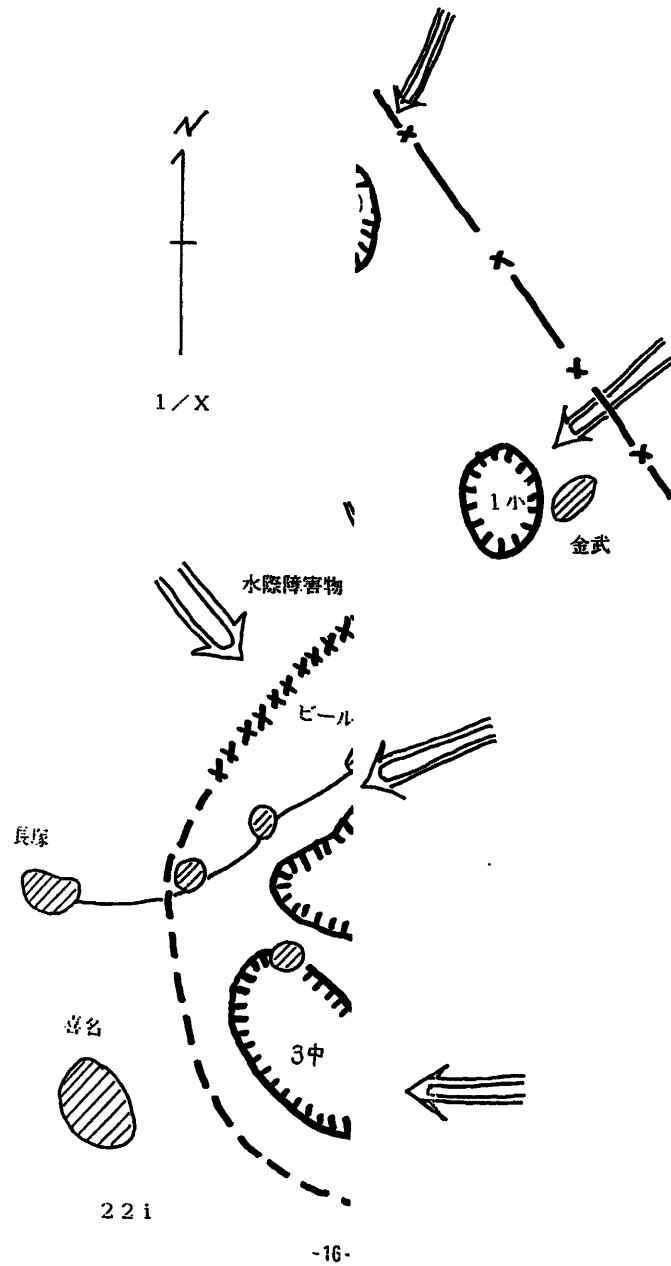
- 北小地区隊 長 伊東大尉
 第1大隊 (第3中隊、機関銃1小隊欠)
 連隊砲中隊 (1小隊欠)
 速射砲1小隊
 有線1小隊

- 南小地区隊 長 志村大尉
 第2大隊 (第5中隊の1小隊欠)
 連隊砲1小隊
 速射砲中隊 (1小隊欠)

- 恩納警備隊 長 工藤大尉
 第3中隊 (1小隊欠)
 機関銃1小隊
 無線1分隊

- 連隊直轄部隊
 連隊本部 (軍旗小隊共)
 通信中隊 (有線2分隊、無線2分隊欠)
 歩兵砲大隊本部
 第5中隊の1小隊
 独立機関銃第3大隊 (2中隊欠)
 師団無線1分隊

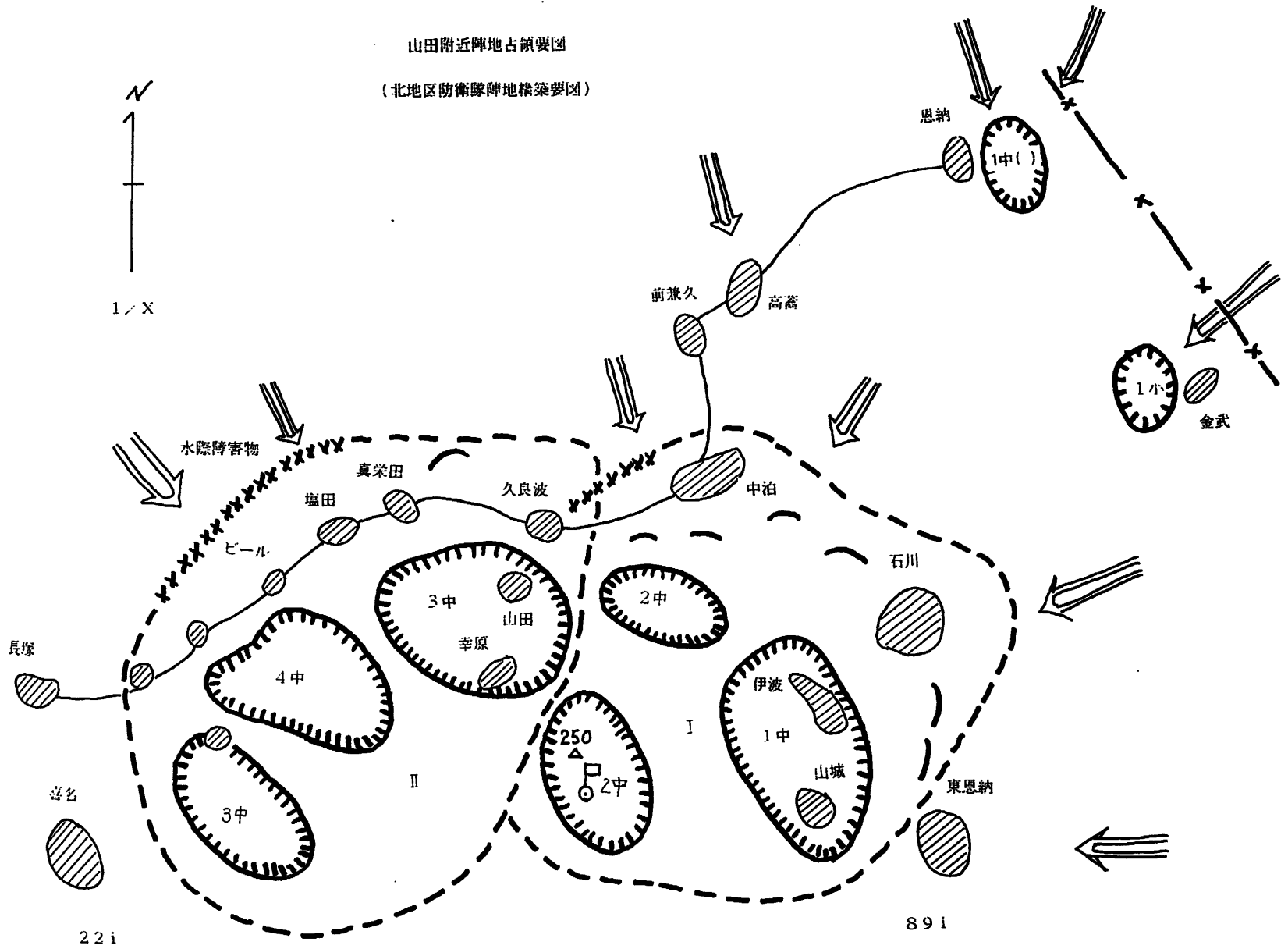
(7) 山田付近に於ける防備隊の指揮系統通信網監視哨の配置左記の如し



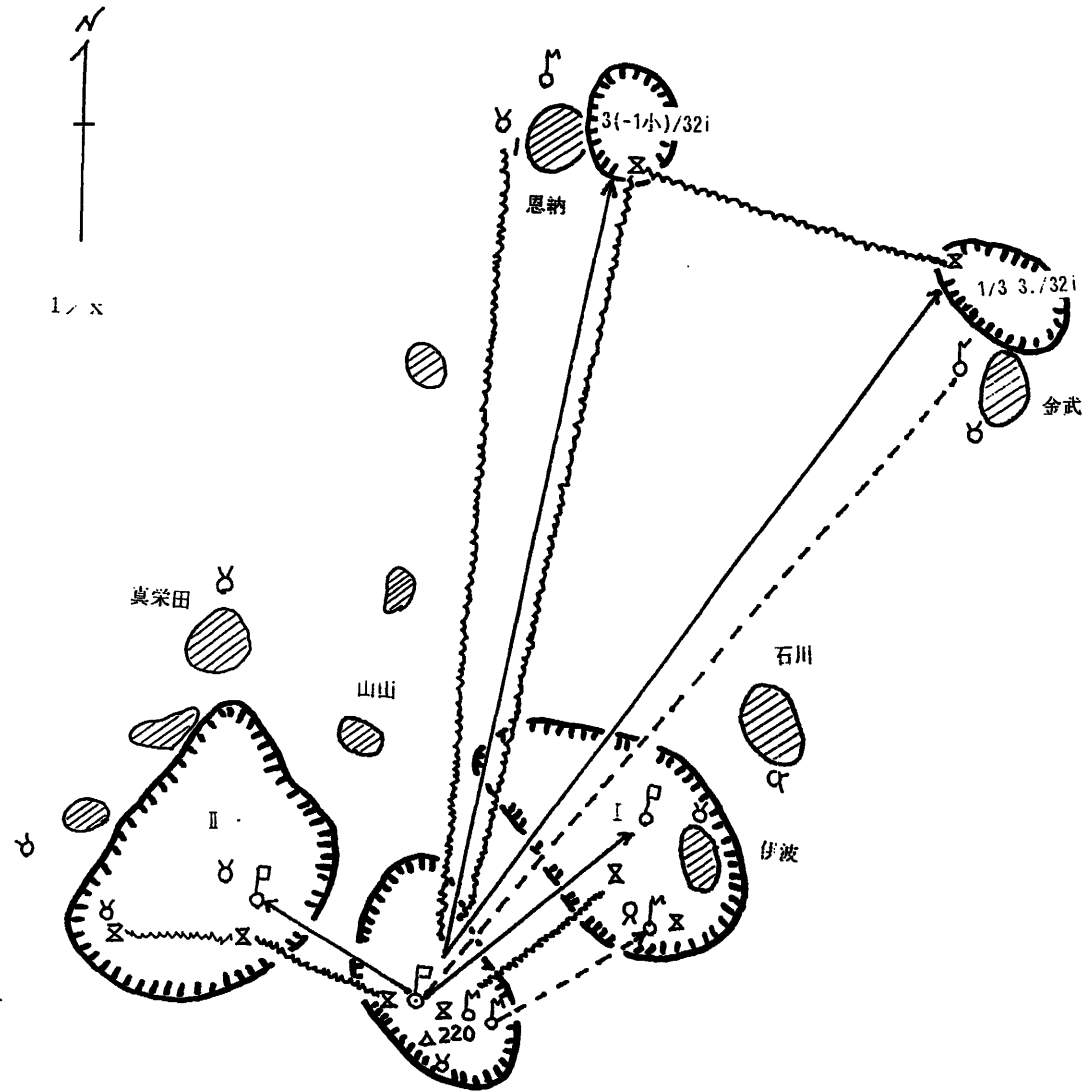
山田附近陣地占領要図
 (北地区防衛隊陣地構築要図)



1/X



山田附近北区防衛隊指揮系統
通信網、監視哨配置要圖



3. 第3期 島尻移駐より戦闘開始まで

自 昭和19年12月10日

至 昭和20年 3月22日

(1) 師団は第9師団(武部隊)の某方面への移動に伴い島尻地区に移駐を命ぜられ、連隊は師団命令に基づき昭和19年12月10日山田付近出発、11日第9師団武部隊の警備地区たりし糸満地区に前進し12月中主として宿営地の偵察宿舎の構築並びに陣地偵察に任せり

(2) 師団命令に基づき偵察の結果連隊は西地区防備隊として左記要図の如く陣地を決定し、昭和20年1月1日より全力を挙げて陣地決戦の意気に燃え陣地構築に着手せり

(3) 12月11日 左記部隊配属せらる

独立機関銃第3大隊(第3中隊欠)(長 金田少佐)

独立機関銃第17大隊(第3中隊欠)(長 高島大尉)

独立速射砲第3大隊第1中隊(長 松井大尉)

野砲兵第42連隊第1中隊(長 相田大尉)

(4) 昭和20年2月11日 師団は師団全般の編成改正を行う連隊は師団命令に基づき左の如く編成を改正す

連隊本部

第1大隊(長 伊東大尉)(歩3中、MG1中、BiA1小)

第2大隊(長 志村大尉)(同上)

第3大隊(長 満尾大尉)(同上)

連隊砲中隊(長 三好大尉)

速射砲中隊(長 萩生中尉)

註 MG中隊は指揮班、2小隊とし小隊は4銃編成とす

第3大隊BiA小隊は迫撃砲とし9門編成とす

(5) 島尻地区に於ける西地区防衛隊の軍隊区分左記の如し

北小地区(長 伊東大尉)

第1大隊

独立機関銃第3大隊第2中隊

独立速射砲第3大隊第1中隊（1小隊欠）

連隊砲中隊（1小隊欠）

中小地区隊（長 満尾大尉）

第3大隊

独立機関銃第3大隊第1中隊、第2中隊の1小隊

連隊砲1小隊

独立速射砲1小隊

南小地区隊（長 志村大尉）

第2大隊

独立機関銃第17大隊主力

独立速射砲の一部

砲兵1小隊

（6）野砲中隊は其の主力（2門）を連隊直轄として糸満及び照屋各1門、2門を南小地区に配属す

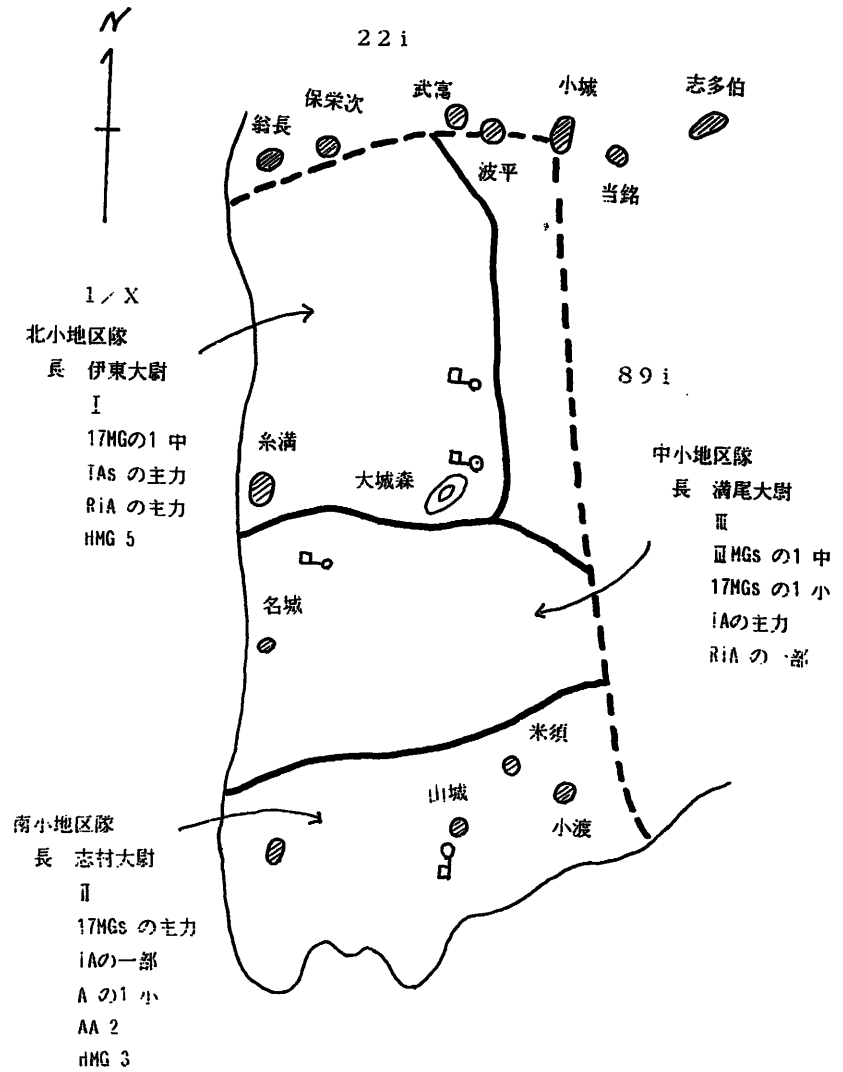
（7）次に高射機関銃7門配属せられ其の5門を北小地区隊に配属、糸満に3門、潮平に3門其の2門を南小地区隊に配属小波に配置す

（8）更にAA小隊（4門）配属せられ2門を中小地区隊に配属、大里南側地区に配置し2門を南小地区隊に配属小波に配置して夫々対戦車対舟艇射撃に任せしむ、築城は将兵の奮闘努力に依りきわめて順調に進捗して他部隊に比し優秀な成績を収め得たり、陣地決戦の標語は能く将兵の脳裏に刻印せられたる結果に他ならずと信ず

（9）教育訓練は当初に於ける陣地構築の不十分と予想期間僅少なりし結果当初は陣地構築の進捗に応じこれを利用する訓練を適時実施せしむると共に敵情漸次近迫するに従い敵情に應ずる如く訓練を増減し、又各小地区隊及びその他の部隊に問題を与えこれが錬成を期し概ね予期の成果を上げ得たり

（10）その他の敵情連絡、内務、兵器、経理、衛生、獣医等各業務は各主任者の奮励努力により頗る良好の成果を上げ得たり

西地区防衛隊陣地構築（占領）要図



第4 戦闘経過の概要

1. 第1期 敵侵攻初期より首里 転進時期まで 地区

自 昭和20年3月23日

至 昭和20年4月22日

(1) 昭和20年3月23日 敵は愈々本島に対し多数の艦船をもって侵攻し、猛烈に艦砲射撃を実施すると共に熾烈なる銃爆撃を開始す、糸満地区最も熾烈にして逐次国吉、真栄里、名城、喜屋武、米須付近に及び其の弾量は毎日極めて多量に上がり、地区隊は特に敵地上部隊上陸前に於ける損害を最小限に局限するため最善の努力を払い人員はもちろん馬匹、兵器弾薬、糧まつ資材等殆ど損害を見ざりき3月23日より4月22日までに於ける損害左の如し

人員 戦死 准尉1、下士官3、兵7

馬匹兵器弾薬資材 なし

糧まつ 若干

(2) 3月25日 新たに独立第26大隊(長 豊福大尉) 配属せられたるを以つて左の如く位置せしめ陣地を強化す

本部、第1中隊 大里付近

第3中隊 賀数

第2中隊 南小地区隊に配属

(3) 敵の上陸必至となりしを以つて豊福大隊を米須付近に配置し陣地を強化す爾後に於ける軍隊区分左の如し

北小地区隊(長伊東大尉)

第1大隊(第2中隊長指揮する2小隊欠)

独立機関銃第17大隊第2中隊

独立速射砲第3大隊第1中隊(1小隊欠)

連隊砲中隊(1小隊欠)

高射機関砲3門

中小地区隊(長 満尾大尉)

第3大隊 (第10中隊の1小隊、迫撃砲半小隊欠)
独立機関銃第3大隊第1中隊、第2中隊の1小隊
連隊砲1小隊
独立速射砲1小隊
高射砲1小隊 (2門)

南小地区隊 (長 志村大尉)

第2大隊 (第5中隊の1小隊、第6中隊1小隊、機関銃1小隊欠)
独立機関銃第17大隊第1中隊の2小隊
速射砲1小隊
野砲1小隊
無線1分隊
有線1分隊

豊福大隊 (長 豊福大尉)

独立歩兵第26大隊 (1中隊欠)
大山大尉指揮する歩兵1中隊
第2機関銃中隊の1小隊
独立機関銃第3大隊の1小隊
高射機関砲2門
迫撃砲半小隊

連隊直轄

連隊本部 (軍旗小隊)
第6中隊の1小隊
通信中隊 (有線無線各1分隊欠)
独立機関銃第3大隊 (第2中隊の1小隊欠)
独立機関銃第17大隊 (第2中隊の2小隊欠)
野砲第1中隊 (1小隊欠)

(4) 4月1日 敵地上部隊は遂に嘉手納、北谷海岸に上陸す、其の兵力約6ヶ師団、戦車1ヶ師団と称せらる、

島尻地区に於いては3月27、28日の両日に互り湊川に於いて上陸を陽動したるも遂に上陸するに至らず島尻地区に於いては最後まで上陸を企図せざりき

(5) 北谷付近に上陸したる敵は逐次南下し4月10日第62師団正面の攻撃を開始し4月20日頃敵の第1線は概ね棚原付近の線に進出せり、一方敵は4月6日、一部を以つて名護付近に上陸し8日其の主力の上陸を見るに至り又有力なる一部は4月16日、伊江島に上陸し逐次席卷す、中頭地区の一部の敵は国頭に進入せり

(6) 4月10日 独立機関銃第17大隊 (第1中隊欠) の配属を解かれ該部隊は翁長付近に転進す

(7) 4月15日 独立機関銃第17大隊 (第2中隊欠) は新たに配属せられ左記の如く配置す

第3中隊	北小地区隊に配属
第1中隊の2小隊	南小地区隊に配属
爾余	連隊直轄として照屋に位置す

(8) 師団命令により10組の斬り込み隊を翁長付近に差し出し歩兵第22連隊長の指揮下に入らしむ、該斬り込み隊は相当の戦果を挙げたるも半数は戦死するに至れり

2. 第2期 首里地区転進より5月4日攻勢時期まで

自 昭和20年4月23日

至 昭和20年5月4日

(1) 4月21日 歩兵1大隊を22日夜出発、首里南側地区に前進、同地付近に潜伏集結せしむべき師団命令を受領す

故つて直ちに豊福大隊に配属中の大山大尉の指揮する小隊を復帰せしめ第1大隊 (連隊砲中隊 (1小隊欠) 3/MGを属) を22日夜賀敷付近を出発せしむ、同部隊は同夜首里南側新川付近に潜伏、23日夜師団直轄となり同夜艦砲、迫撃砲の猛射中の小波津に到着、其の北側高地を占領す、其の左翼には22i右翼には通玉森には89iの大隊あり、第2中隊を第1線に第1第3中隊を第2線とし

て配置す、又前進部隊として独立機関銃第3中隊の山田小隊を小橋西側高地に配置す、優勢なる敵艦砲射撃迫撃砲の下陣地なく一夜作りの「タコ」壺に掘り男戦奮闘、敵に甚大なる損害を与う、大隊も亦多大の損害を受け山田小隊は全滅第2中隊の如きは其の半数を失うに至れり、4月25日師団直轄を解かれ連隊に復帰す

小波津付近の戦闘に於ける彼我の損害の概数左の如し

敵に与えたる損害

人員殺傷	400	戦車かく座炎上	14	火砲破壊	1
車両破壊	6	銃器破壊	4		

我が軍の損害

死傷	210	(2中100)	独機	50	その他	60
火砲	RA	2	MG	4		

(2) 伊東大隊は小波津付近の戦闘の成果により師団長より賞詞を授与せらる

(3) 連隊主力は師団命令に基づき現警備地区を特編第3連隊長に引き継ぎ独立第26大隊を同隊長の指揮下に入らしめ独立速射砲第3大隊第1中隊を原所属に復帰せしめ、4月23日夜現警備地出發、熾烈なる各種砲弾下左の如く首里南側地区に前進、同地に潜伏し爾後の攻撃を準備す

(4) 4月24日 同地に於て1/3TA (長 松井大尉) 再び配属せらる

連隊主力は依然現任務を続行しつつ首里東南側付近の陣地を堅固ならしむる目的を以つて22iと交替し第2大隊(2/3MGBns, TA(1小欠)配属)を以つて弁ヶ岳南側地区に第3大隊(1/MGs, 1/2RiA配属)を以つて新川付近を占領、陣地を構築し爾後の戦闘を準備す、各部隊の処置宜しきを得熾烈なる砲撃の下損害僅少にして士気極めて旺盛なり未だ地上の敵を見ず

(5) 4月26日 第2大隊を以つて前田北端高地の為朝岩の賀谷支隊を救出し同地を占領すべき師団命令を受領し、27日夜同大隊(配属部隊T)を以つて同陣地を付近の敵を夜間攻撃し、同夜は之を確保し得たるも、天明と共に熾烈なる銃砲火をうけ死傷続出し勝山西側高地より経塚北端攻撃発揮の位置に後退の止むなきに至り、全線に於て更に攻撃再興の準備を為す

第2大隊は之の時既に其の兵力の大半を失う、第3大隊(第9中隊を欠き配属部隊旧の如く更に1/3TAS(1小隊欠)を配属)は第2大隊の後奥として首

里北側地区に進出、爾余の部隊も亦石嶺付近に進出爾後の戦闘を準備す、連隊は石嶺南側に位置す

(6) 4月28日 新たに3Bn/89i (長 深見大尉) を配属せられ29日到着す(5月3日配属を解かる) 同日連隊は主力を以つて前田周辺地区の敵を撃破し之を確保すべき師団命令を受領し、左記要旨の命令を下達す

命令の要旨

1. 敵情、友軍の状況 略す
2. 連隊は主力を以つて前田周辺地区の敵を撃破し同地を確保せんとす
3. 第3大隊は右第1線となり前田東北端付近の敵を撃滅し同地を確保すべし
4. 第2大隊は現在地付近に於て左第1線となり前田西北端付近の敵を撃滅し同地を確保すべし
5. 確保の時期は29日2時とす
6. 主力/3MGBnsは主として第3大隊の戦闘に、主力/17MGBnsは主として第2大隊の戦闘に協力すべし
7. A小隊は前田付近の敵陣地を射撃
8. 第1線大隊の戦闘地境は勝山南端三叉路-西原南端十字路を連らぬる線とす(線上は右大隊に属す)
9. 余は勝山南側に在り
10. その他 略す

右命令に基づき各第1線部隊は行動を開始し、第3大隊は敵陣地を奪取したるも天明と共に敵の猛火を受け死傷続出し攻撃準備の位置に後退の止むなきに至り、同地に於て爾後の攻撃を準備せり

第2大隊は其の攻撃成功し、為朝岩付近一帯を占領し同地を確保し同地に在りし賀谷支隊と連絡し之を救出したるも29日天明後全く敵の為包囲せらるる所となれり

残存者約100名内無傷者僅かに5名に過ぎず

各隊とも攻撃準備の相当短小なりしと地形の暗濶十分ならず、加うるに洞窟なく「タコ壺」を掘開利用するの止むなき為中隊長以下半数の死傷者を出しめたるも将校以下士気きわめて旺盛なり、爾後5月4日の攻勢後後退命令まで一步も敵を前進し得せしめたり

其の状況左記要図の如し

(11) 4月29日 第1大隊は師団直轄の任務を解かれ連隊に復帰す、深見大隊到着す

(12) 敵は幸地及び前田付近の陣地を逐次圧迫すると共に其の中間地区たる120, 146高地高地を蚕食するに至りしを以つて22iの戦闘地区なりしに拘らず師団は29日我が連隊を以つて之を撃滅せしむ

連隊は師団命令に基づき左記命令を下達す

命令の要旨

1. 敵は120, 146に進入せり
2. 連隊は此の敵を撃滅すると共に該地を確保せんとす
3. 第1大隊(配属旧の如し)は右第1線となり30日0200迄石額方向より146高地の敵を攻撃し之を奪取し同地を確保すべし
4. 深見大隊は30日0200迄に勝山北端より120高地の敵を攻撃同地を確保すべし
5. 第1線両大隊戦闘地境は幸地西端-勝山西南端を連める線とす
6. 予は依然現在地に在り
7. その他 略す

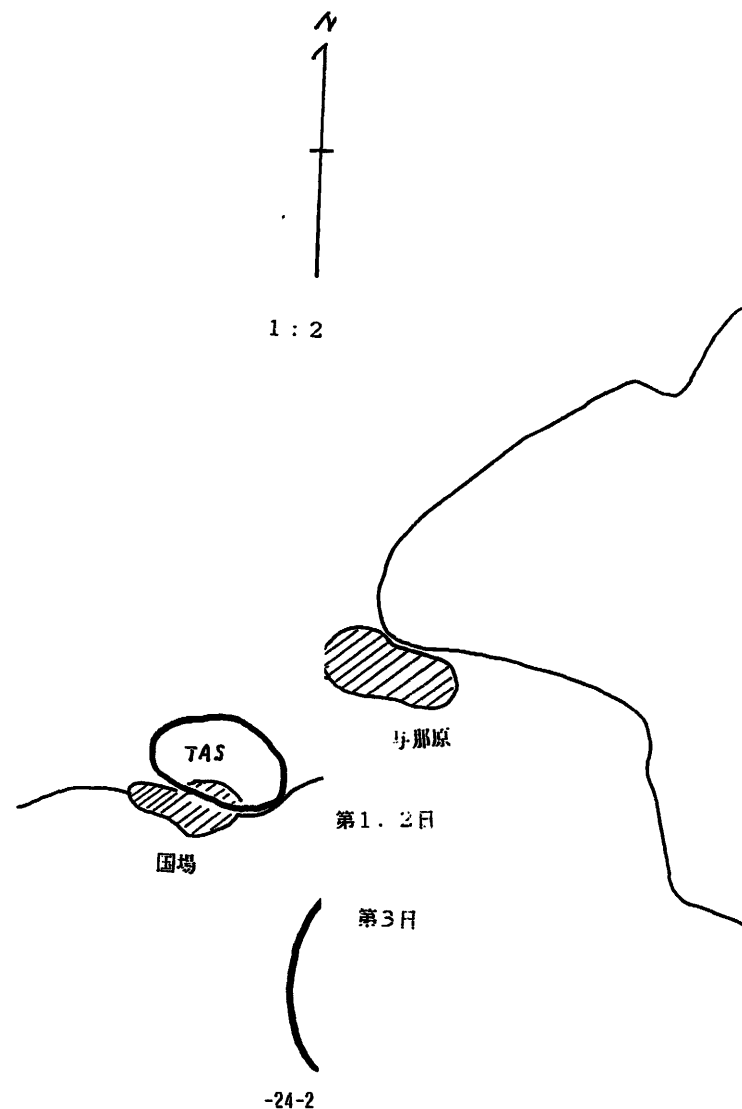
各大隊は右命令に基づき行動し、第1大隊は所命の如く146高地を奪取確保したるも深見大隊は成功するに至らず勝山北端に後退す

4月30日夜 深見大隊をして再び攻撃せしめたるも成功せず敵は逐次120高地付近に兵力を増加す

5月1日 三度深見大隊及び第1線大隊の一部を以つて夜間攻撃せしめたるも遂に成功せず、其の状況左記要図の如し

此の頃連隊は戦闘地区たる前田地区を多人の死傷者を出しつつ敵に至大の損害を与えて之を確保し連隊軍旗の光輝を辱めざりしは一に將兵の奮闘努力の結果にして感激おく能はざる所なり、此の際22iの左翼は幸地南側高地62Dの右翼は仲間南側地区に在りて前田地区は突角部を形成しあり、それ丈に敵の攻撃は猛烈を極めたり

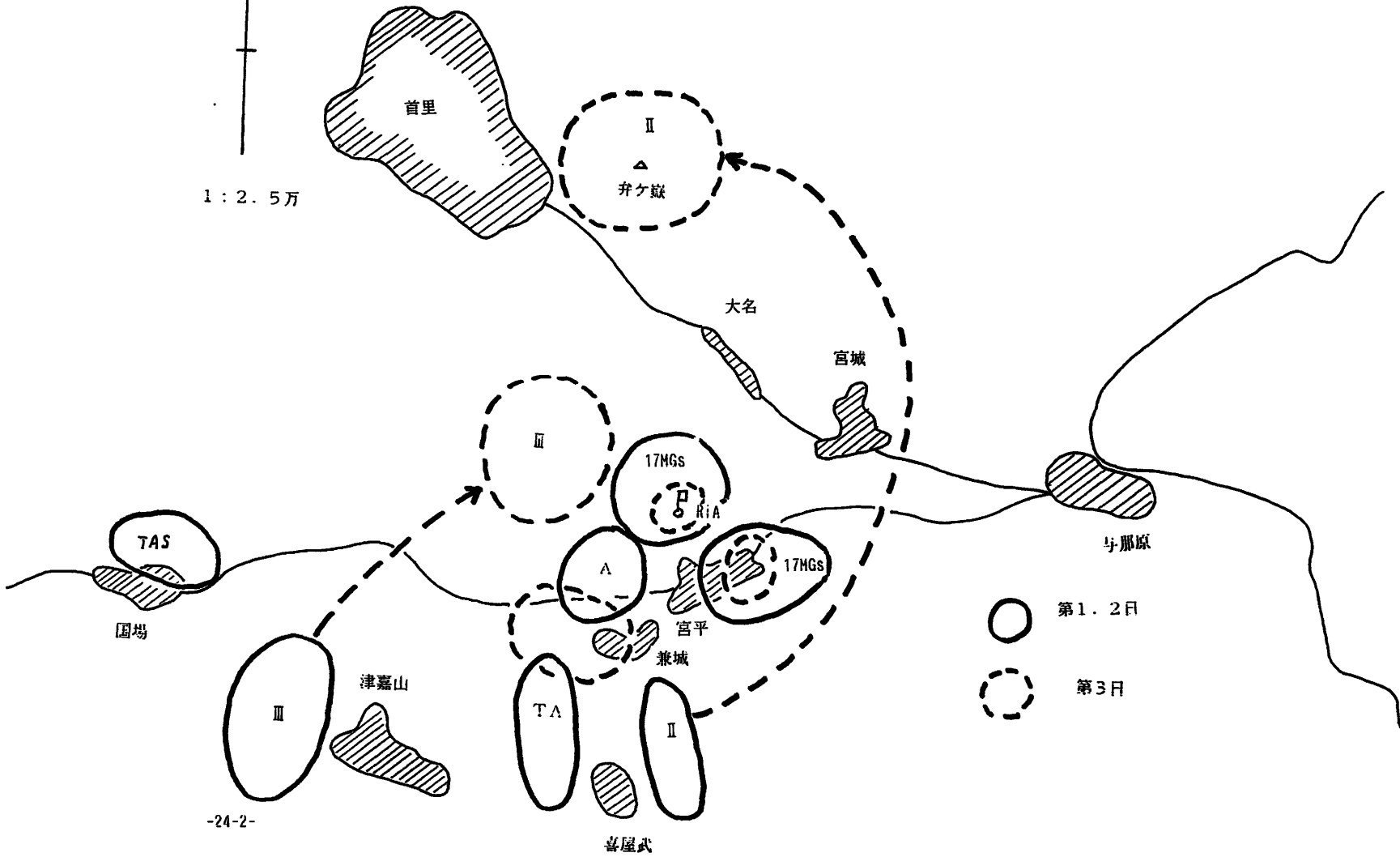
(13) 本時期に於ける敵は海兵師団にして装備は極めて優秀なり、我は飛行機なく火砲弾薬貧弱なるに比し敵は極めて優秀なり、特に砲弾は降雨のごとく落下



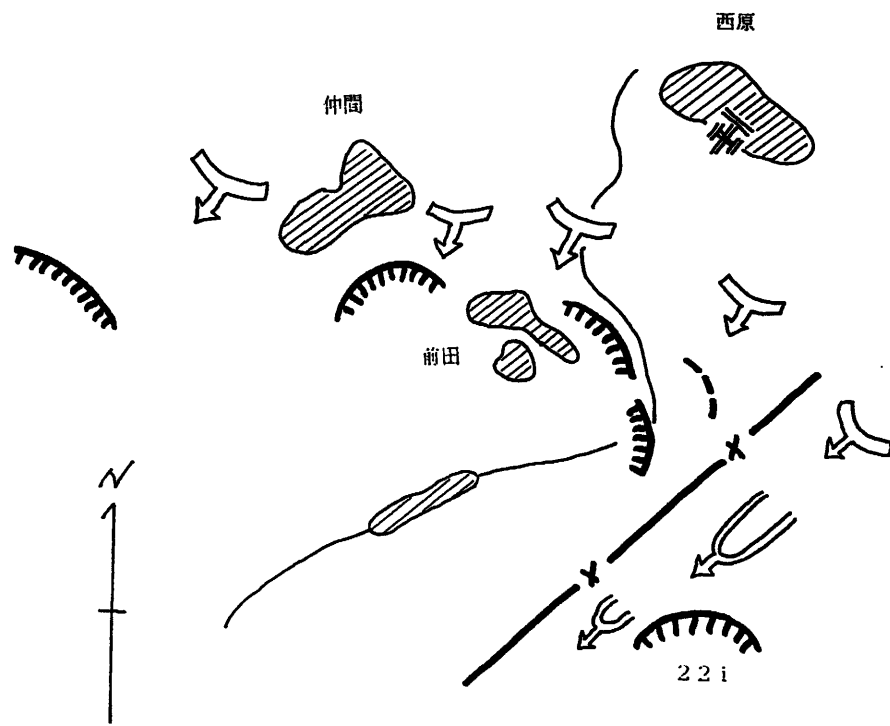
4月23日～ 首里地区への前進要領



1 : 2.5万

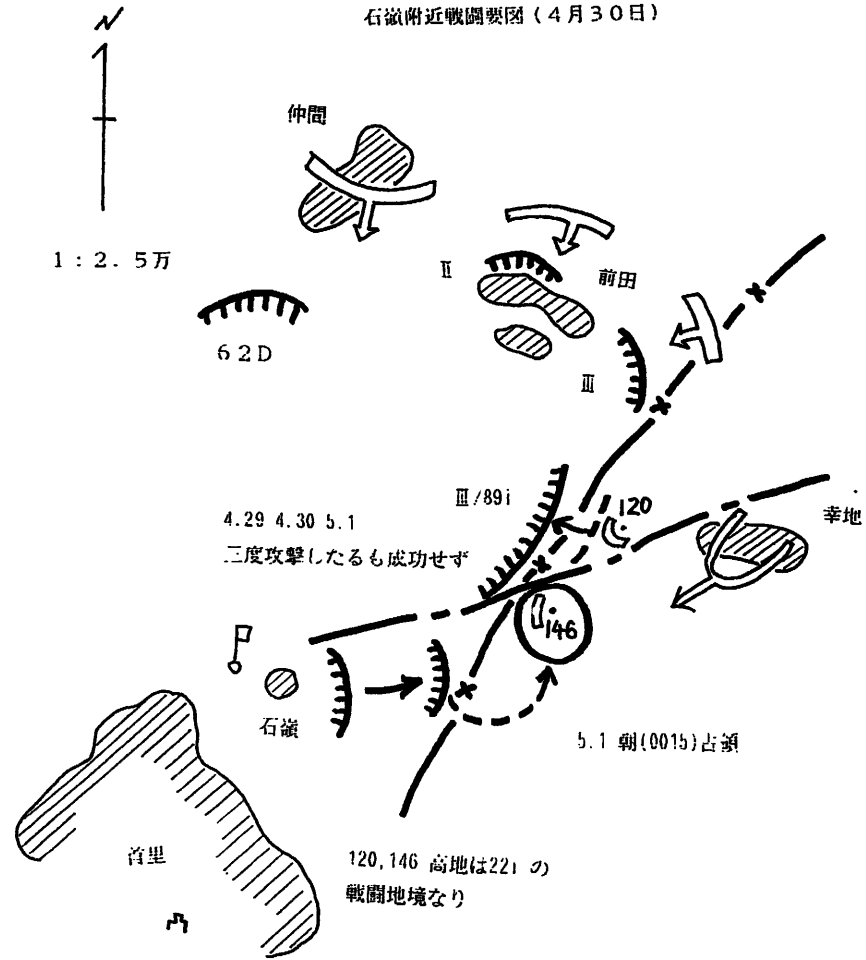


前田附近戦闘要図(4月28日頃)



1 : 2.5万

石嶺附近戦闘要図(4月30日)



せり(14) 5月2日 独立歩兵第26大隊(長 豊福大尉)の配属を受け5月3日到着す(4日?)

3. 第3期 5月4日攻勢より首里付近戦闘まで

自 昭和20年5月4日

至 昭和20年5月28日

(1) 5月2日 総攻撃に関する師団命令を受領し左記要旨の連隊命令を下達す
連隊命令の要旨

1. 師団前面の敵は退却の兆あり、師団は飛行機協力の下5月4日攻撃を開始し喜捨場の線に進出を企図す
2. 連隊は左第1線となり4日早朝前面の敵を攻撃し先ず棚原西北方高地に向い前進せんとす
3. 第1大隊(配属部隊旧の如し)は第1線大隊となり4日0420迄に146高地に攻撃を準備し、0500前進を開始し120高地を経て棚原西北方高地に向い前進すべし、敵第1線攻撃に方り戦車隊之に協同する筈
4. 独立大26大隊(無線1分隊配属)は第2線大隊として4日0430迄現在地付近に攻撃を準備し0500同地出発棚原西南方143高地に向い前進すべし
5. 第3大隊(配属部隊旧の如し)は第3大隊に連携し前田東北側付近の敵を撃退したる後、第1線大隊にこん随すべし
6. 第2大隊(配属部隊旧の如し)は第2大隊に連携し前田西北側の敵を撃退したる後第1線大隊にこん随すべし
7. 3MGBnS主力は第3大隊戦闘に協力すべし
8. 17MGBnS主力は第1大隊戦闘に協力すべし
9. 戦闘地域の境界 略す
10. 第3大隊/89iは明3日原所属に復帰すべし
11. 予は前田南側に在り後143高地に向い前進す
右命令に基づき各部隊は行動を開始す
第1大隊は予定の如く行動したるも天明と共に敵の猛射を受け其の第1線たる第3中隊の如きは70%の損害を被るに至り昼間の攻撃を一時断念し爾後の攻撃

を準備するに到る、敵飛行機の銃爆撃は終日続行せられ死傷続出す

夜に入り連隊命令を以つて攻撃を再挙せしむ、大隊はR i Aを置きし主力を以つて120高地前田間の地区を突破し予定地区に進出同地を確保す

翌5日天明と共に敵の猛火猛攻撃を受け死傷続出したるも5月6日夜連隊命令に依り後退するまで3日間良く頑強にこれを保持し、敵線内奥深く敵に与えたる脅威は極めて大なるものあり、軍司令官より感状を授与せられ賢くも上聞に達す

第2大隊は予定の如く前進したるも前田付近以後消息を断つに至れり、第3大隊は予定のごとく友軍の砲兵の支援の下攻撃前進したるも敵の猛火を受け死傷続出其の2/3を失うに至りして以つて攻撃準備線に一時後退し攻撃再挙に専念す

第3大隊も亦予定の如く攻撃前進したるも是亦死傷続出攻撃準備の線に後退するの止むなきに至る、連隊長は前田付近戦闘の状況に鑑み更に部署を変更し4日夜更に攻撃再挙を命ず

第1大隊は前述の如く棚原北方高地に予定の如く進出し敵に至大の脅威を与え多大の成果を取めたるに反し第2、第3大隊の攻撃は其の兵力の少数と敵猛火のため午後の前進頓座し再三の攻撃共に敵第1線を撃退したるも敵兵が優勢にして事後の前進不可能となる、第2大隊は爾後全く敵の包囲を受け脱出困難に陥る一般状況左記要図の如し

12. 5月4日 戦略持久態勢を更に強化するため首里北側地区に転進すべき師団命令を受領すると共に新たに独立速射砲第3大隊(1中を欠き独立第1大隊第1中隊を属 長 法師中佐)を配属せらる

右命令に基づき左記の如く部署すると共に行動を開始す

(1) 第2、第3大隊は直ちに転進の命令を下達し行動を開始し得たるも第1大隊は依然棚原にあり、無線不通のため翌6日に至りようやく伝達、行動を開始せしむることを得たり

(2) 独立歩兵第12大隊/第62師団の転進を援護す

(3) 独立速射砲第3大隊を経塚東側高地に配備し連隊主力の転進を援護せしむ 第2大隊は5日夜経塚東南側凹地に転進するため行動を發起したるも其の主力は敵のため退路を遮断せられ目的を達し得ず、止む得ず現陣地を固守し敵の後方擾乱を 状況許すに至らば連隊主力に復帰する如く命令す

(4) 5月6日 連隊本部及び第3大隊は11時30分頃より敵の包囲をうけるに至りたるをもって夜暗を利用し其重砲を脱し勝山西南側凹地に転進す
(5) 第2大隊は昨5日に引き続き極力転進を企図したるも敵の警戒敵なるのみならず其兵力極めて優勢なるをもって脱出不可能となり多数の死傷者を出せるのみ、但し士気は極めて旺盛なり

(6) 5月7日 独立歩兵第29大隊(長 中本大尉)配属せらる
同日連隊は勝山北端及び経塚北端を連ねる線を占領し敵を撃破すべき任務を受く、第1大隊は棚原より転進し石嶺北側付近に集結す棚原に於ける同大隊の損害大にして大山大尉、森少尉、大滝少尉等多くの將兵を失へり
(7) 連隊は累次戦闘に依り損害甚大にして戦力甚だしく減少しあり5月8日師

団命令に依り左記部隊を編入せられ編成替えを実施す
独立第1大隊第1(2?)中隊 し重兵第24連隊の一部
独立歩兵第26大隊 沖縄連隊区司令部砂川大尉以下10名
独立歩兵第29大隊 海上第26戦隊の一部

前項の部隊の編入を受くと共に左の如く編成改正を実施す

歩兵第32連隊 編成改正表

編成部隊	編成の為充当部隊	摘要
第1大隊	長 伊東大尉 旧1, 2大隊の生存者(志村大尉以下80名を除く) 24Iの一部	
第2大隊	長 中本大尉 独立歩兵第29大隊の一部 海上第26戦隊の一部	志村大尉以下 80名は為朝 岩を固守しあり
第3大隊	長 満尾大尉 第3大隊、独立歩兵第26大隊の生存者 1/b s (依然編成のため3TAsに配属) 24Tの一部	
備考	1. 連隊本部、R i A, T A, i Kは現編成の儘とす 2. 沖縄連隊区司令部砂川大尉以下10名は各大隊に編入す	

右編成改正に伴い5月7日より8日迄に於ける綜合陣地編成の概要左記要図の如し

(8) 5月10日 總攻撃の戦功により師団長より賞詞を授与せらる
(別紙参照)

敵は逐次殊に戦車を以つて勝山方向より攻撃を指向すると共に経塚西方62D正面を圧迫す、第1線大隊は能く優勢なる敵の猛攻を撃退し現陣地を確保し連隊正面は17日頃は前項要図の如く突出し危険を生ず

第1大隊は渾砥方向よりする敵を撃滅す、敵の砲火は極めて激烈にして所謂雨降る如しとはこの事を言ふべし、敵戦車は毎日前田方面より勝山付近に進出し其の西方低地を砲撃せしを以つて師団に砲撃を要求したるも思うに委せず

(9) 5月11日 石部隊第12(11?)大隊及びし重隊配属せらる

(10) 第12大隊、火砲連隊及び第3大隊本部は勝山西方高地に於て敵の猛攻を受け全く退路を遮断せらる、依つて第2大隊をして5月11日夜襲せしめ之が救出に任せしむ

(11) 第3大隊は其の1中隊を以つて前項敵を夜間攻撃し32連隊第3大隊、第62師団の独立歩兵第12大隊、白砲連隊救出に成功せり

(12) 5月12日 師団は首里周辺地区に兵力を集結し敵を陣前に撃滅するに決し連隊は予備隊として赤田町及び石嶺南側地区に兵力集結を命ぜらる

12Bs, T/62Dの配属を解かる同日連隊本部は石嶺南側高地に移動す

(13) 5月17日 第3中隊/独立機関銃第17大隊新たに配属せらる、同日連隊は22iと交代し中地区隊となり戦車隊の右翼に連携し(TKは石嶺付近を占領しあり)石嶺東北側-130高地-140高地-150高地の線を占領すべし師団命令を受領し左記要図の如く陣地を占領す又左記部隊配属を受け陣地占領を命ず

a. 特編第4連隊

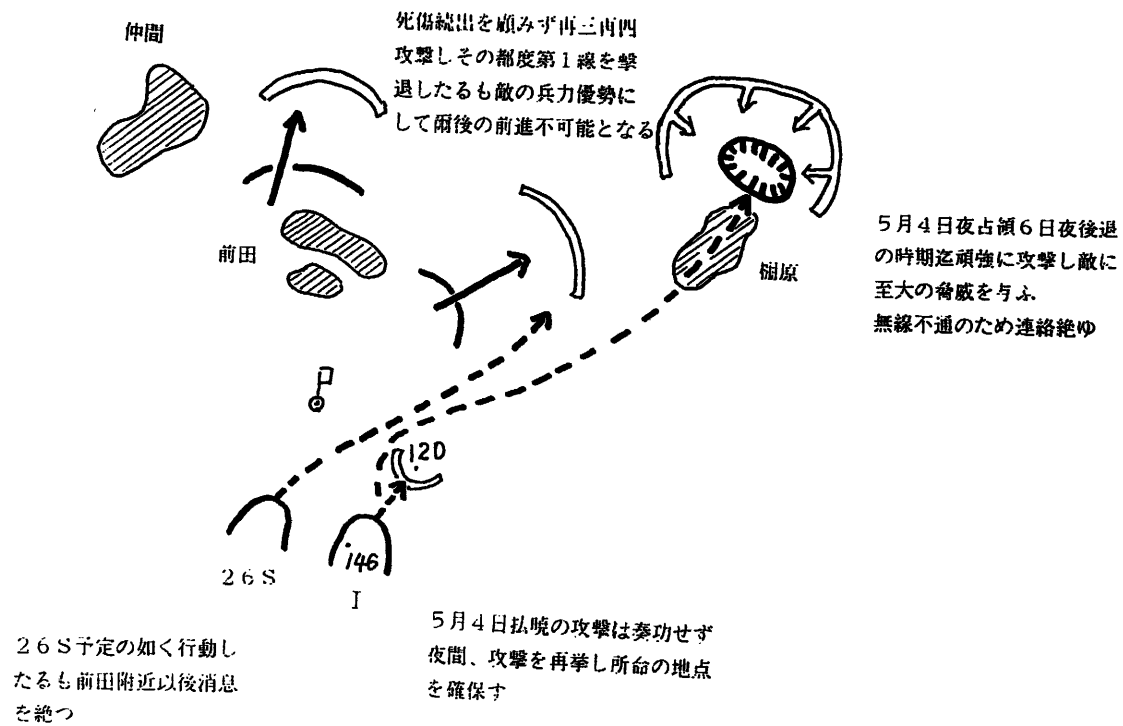
b. 特編第2連隊第1中隊(1中欠)

同日第3中隊、第9中隊をTK連隊に配属す

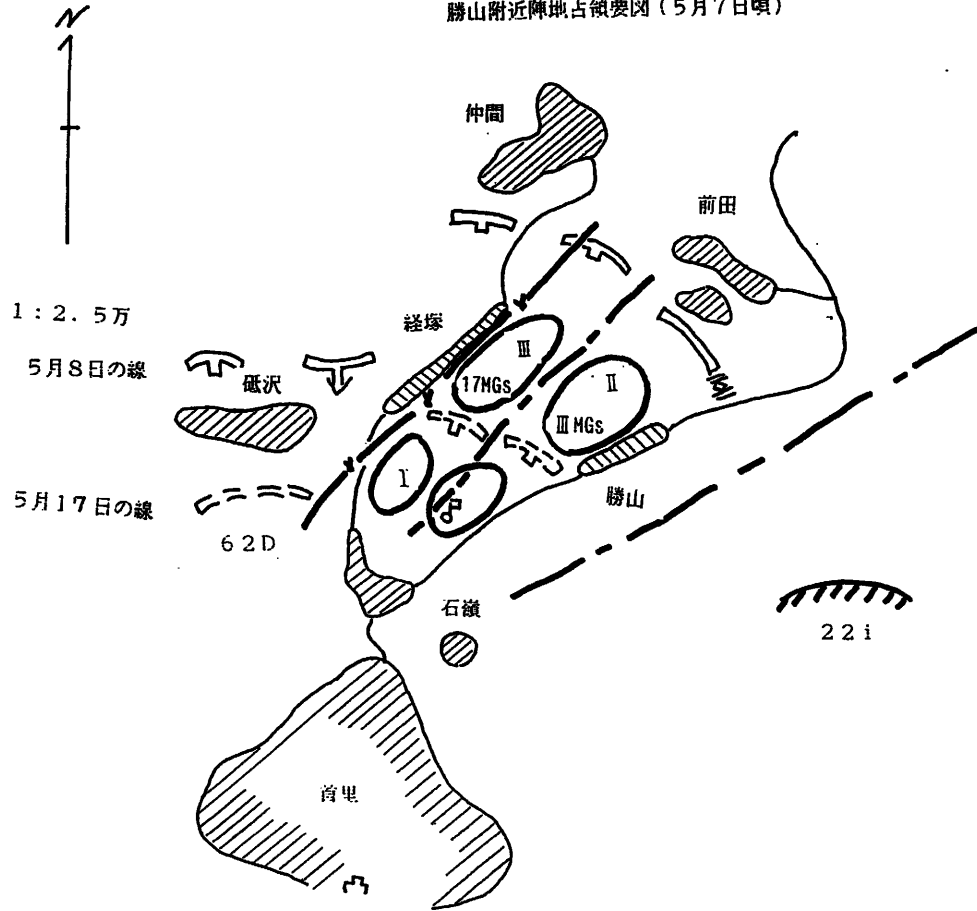
第1大隊は陣地占領以来の敢闘に依り大なる戦果を取め得たるは将校以下の苦闘

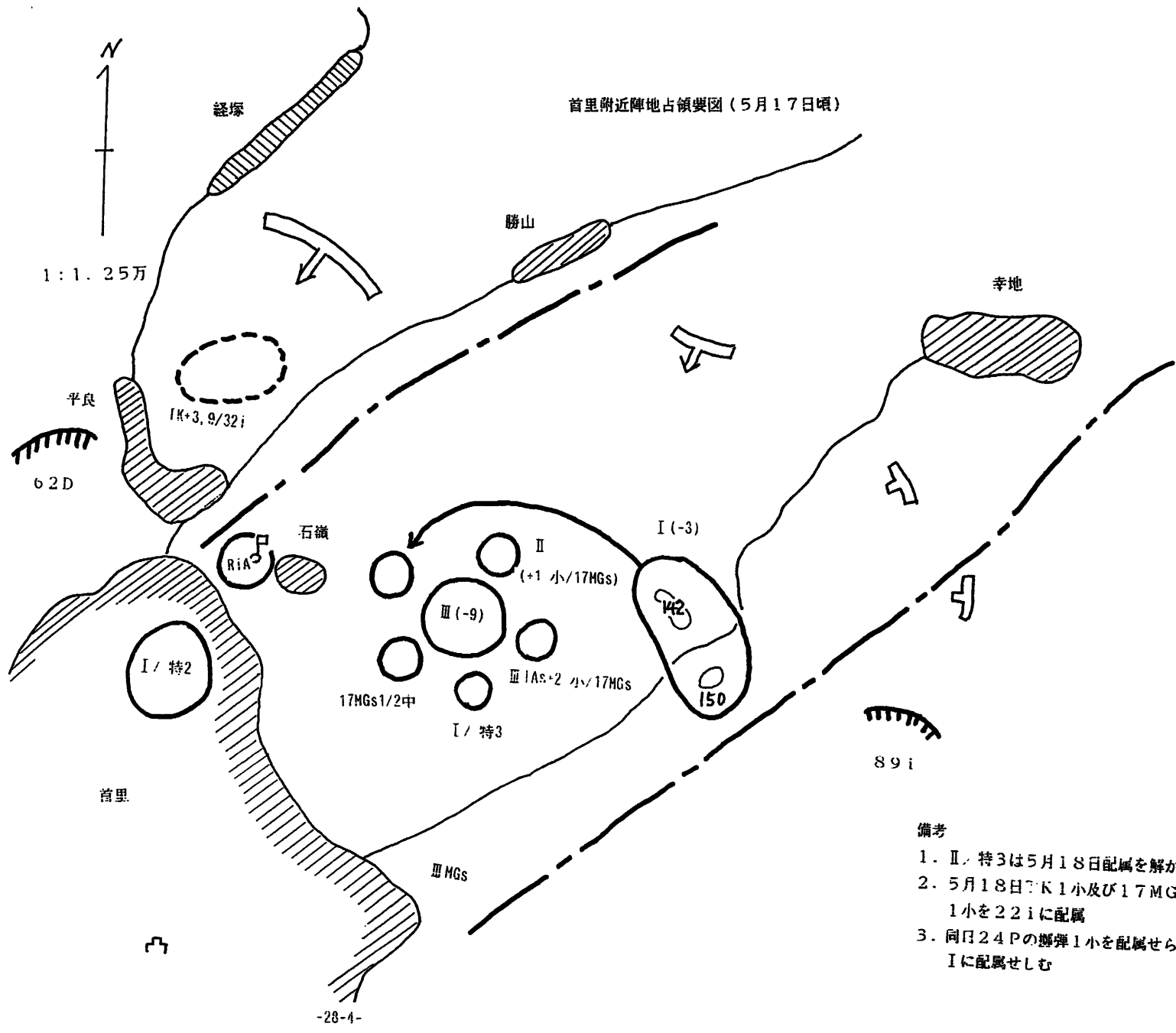
4日夜占領6日夜後退
期迄頑強に攻撃し敵に
の脅威を与ふ
不通のため連絡絶ゆ

5月4日 攻撃の態勢要図



勝山附近陣地占領要図(5月7日頃)





首里附近陣地占領要図 (5月17日頃)

1:125万

備考

1. II/特3は5月18日配属を解かる
2. 5月18日T/K1小及び17MGsの1小を22iに配属
3. 同日24Pの擲弾1小を配属せらるIに配属せしむ

首里附近陣地占領要図 (5月21日頃)



1:1.25万



平良

勝山

幸地

3.9/32i

I (-3)

II 1小/17MGs

II / 特4

石嶺

TAs

140

1小/17MGs

150

III TAs

I / 特4

III (-9)

17MGs主力

RiA

iFL

III MGs

89i

首里



感激措く能はざる所なり、一方又損害甚大にして5月20日に至り戦闘力逐次減耗し毎日40数名の死傷者を補充するためには後方の兵力枯渇するの所あり師団長の認可を得て之を後退、TKとTAとの中間地区に陣地を占領せしめ戦闘せしむ（前項要図参照）此の時第1大隊は大隊長以下20数名に過ぎず

(14) 5月21日 師団命令に基づき地区隊は同大地区隊となりTKの担任地区を併せ担任すTKは他に移動すTKに配属中の3, 9中隊/32i, 1小/17MGS, 2大隊/特設第4連隊, TASを復帰(配属)せしめらる、連隊長は従来の中地区隊の配備を其の儘第1線とし第2大隊/特編4連隊 大隊長(鈴木少佐)をして指揮せしむ、其の状況左記要図の如し

各隊は29日島尻地区転進の為陣地出発迄士気旺盛能く優勢なる敵の攻撃を拒止し甚大なる損害を与えたり、第1大隊は150高地撤退後能く兵力を集結勇戦奮闘、第2大隊及び左第1線の敵の側面を攻撃するの態勢に依り其の正面における攻撃を遅滞せしめたり、3As/3TAs長は第2大隊を併せ指揮(大隊長中本大尉負傷せし為)し優勢なる敵に至大の損害を与えたり左第1線正面に於ては優勢なる敵の攻撃を受けて重囲に陥りて第9中隊は全滅、大隊長戦死する等我が損害も亦大なりき、

27日頃左第1線は前進陣地なりしを以つて一部を残置し連隊本部付近に後退せしめたり、一部の敵は29日62D正面松川方面より首里に進入、首里城跡を占領し逐次南方より連隊本部の方面に進入し来りたるも部隊は能く之を撃退せり連隊内各部隊正面は頑として勇戦奮闘現陣地を確保しあり、之將兵の勇戦奮闘の結果にして連隊長の感激措く能はざる所なり

第4. 第4期 島尻地区転進の為首里付近出発より国吉付近集結まで

自 昭和20年5月29日

至 昭和20年6月2日

1. 5月28日更に戦略持久を強化する為師団は島尻地区に転進すべき師団命令を受領し、左記要旨の連隊命令を下達す

連隊命令の要旨 5月28日 首里北側

(1) 敵情 略す

師団は戦略持久を強化する為島尻地区に転進す

- (2) 連隊は島尻地区国吉付近に転進し更に持久を強化せんとす
 (3) 各部隊は左記計画に基づき行動し先ず国吉付近に集結し爾後の戦闘を準備すべし

歩兵第32連隊転進計画

連隊本部

5月29日夜首里撤退同夜津嘉山に至り6月1日夜同地出発国吉に前進

第1收容部隊

3TAS (2小/17MGS, 1中/3MGS記属), 第2大隊

長 3TAS長 一法師中佐

第2大隊/特編第4連隊 長 橋本大尉

陣地 首里北側現陣地

5月31日夜転進開始、6月2日国吉付近に集結

第2收容隊

右第1線

第1大隊 (1中/17MGS記属) 長 伊東大尉

陣地 本部付近154.4付近

5月29日夜首里北側現陣地撤退、同夜上記陣地を占領

6月3日夜迄に賀数付近に集結

中第1線

第1大隊/特編第4連隊 (主力/3MGS協力、TAS1小記属)

長 藤田少佐

陣地 いちにしばし-南側高地

6月2日2000撤退国吉に前進

6月3日夜までに国吉に集結

左第1線

第3大隊 (1小/17MGS記属)

長 満尾大尉

陣地 国場、中井間南側高地

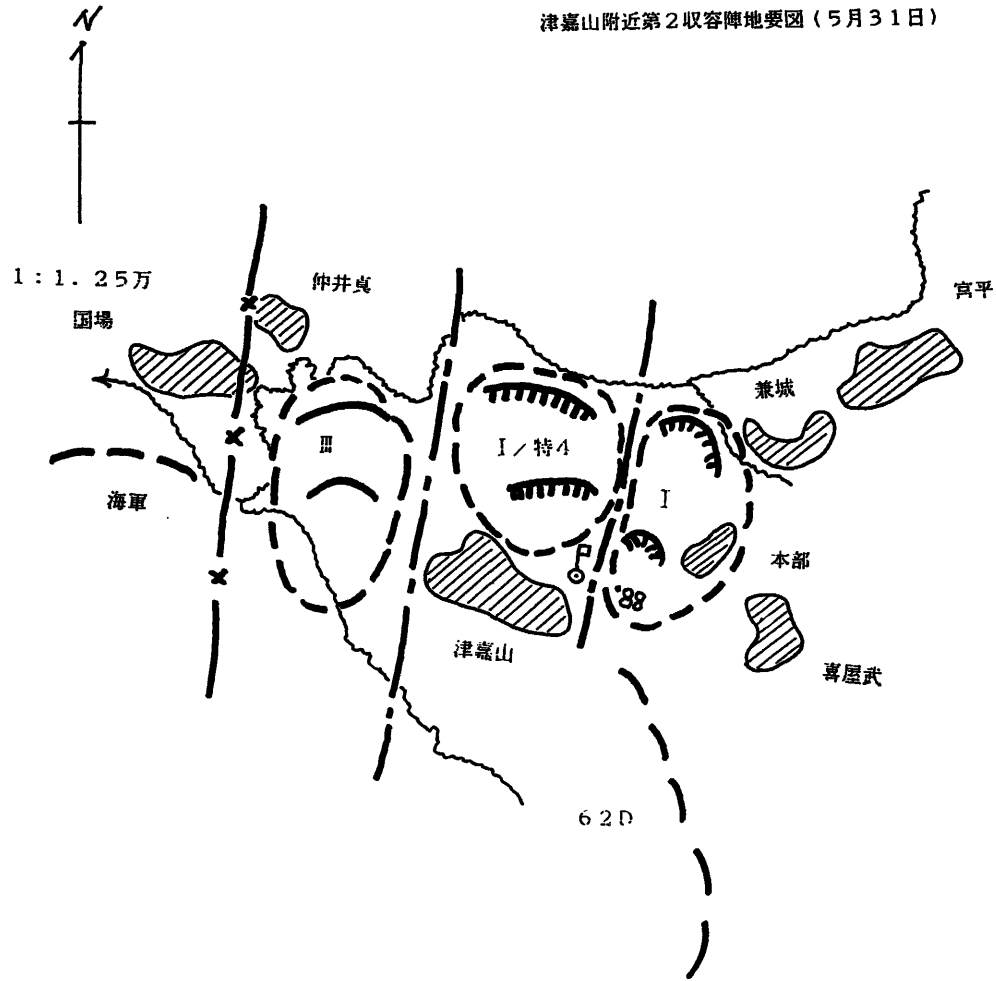
6月3日夜迄に真栄里付近に集結



1:1.25万



津嘉山附近第2收容障地要図(5月31日)



その他の部隊

5月29日夜陣地撤退、津嘉山に位置し6月2日夜国吉に前進
6月2日夜迄に照屋、大森付近に集結

各部隊は右命令に基づき行動を開始せり

第1收容部隊は優勢なる敵を拒止しよく任務を全うし予定の如く国吉付近に集結す

連隊本部及び第2收容部隊は予定の如く29日2000現在地出発津嘉山に到着收容に任ず

29日夕敵の一部は既に松川方面より侵入し首里城跡を占領す

津嘉山付近に於ける状況左記要図の如し

第1大隊正面に於いては30日より連日戦車を有する優勢なる敵は主力を以つて与那原方面より宮平、兼城、本部付近に進攻し来る、第1大隊は能く奮戦多大の戦果を収めつつ所命の時期まで陣地を確保す

中、左第1線亦相当の敵の攻撃を受け多大の戦果を挙げて陣地を確保す、各收容部隊及び各隊は予定の計画の如く6月3日までに島尻地区に集結を完了す

2. 6月3日 師団命令に依り再び左記の部隊編入せらる

独立機関銃第3大隊 (1中欠)

独立機関銃第17大隊 (1小欠)

独立速射砲第3大隊 (1中欠)

特編第4連隊第1, 2大隊

右編入に伴い左記の如く編成改正を行う

歩兵第32連隊編成改正表

被編成部隊	編成充当部隊
第1大隊	長 伊東大尉 第1大隊/32i, 第1大隊/特編第4連隊 一部/3TAS, 1小/17MGS
第2大隊	長 金田少佐 第2大隊/32i, 第2大隊/特編第4連隊

3MGS (1中欠)

第3大隊 長 満尾大尉
 第3大隊/32i, 第2大隊/32iの黒川隊
 一部/3TAS, 17MGs主力

RiA 長 三好大尉
 RiA/32i

TA 長 広瀬少尉
 TA/32i

iTL 長 荻生中尉
 iTL/32i

各部隊の人員は概ね充足し得たるも小銃各大隊70~80、てき弾器4~5、てき弾筒4~5、MG3~5、TA1門、RiA2門のみ、又弾薬少数にして将校以下人員の素質装備は極めて低下せり

第5 第5期 国吉付近陣地占領より戦闘終了まで

自 昭和20年6月3日

至 昭和20年8月28日

(1) 6月3日 国吉付近に陣地占領の師団命令を受領し左記要図の如く陣地占領を完成す

(2) 6月10日 第3大隊/22i (長 緒方少佐) 配属せられ又1FL, 2FL各一部編入せらる、依って1FL, 2FLを第2大隊に編入せしめ第3大隊/22iは予備隊とせり、前進陣地付近に敵戦車初めて現出す

敵(戦車)主力は当初具志頭方面より44Bs方面に進出し我が正面に対しては敵を見ざりし所時日の経過にしたがい逐次東風平、志多伯方面より賀数、潮平方面に進入、又武富、波平付近に進入す

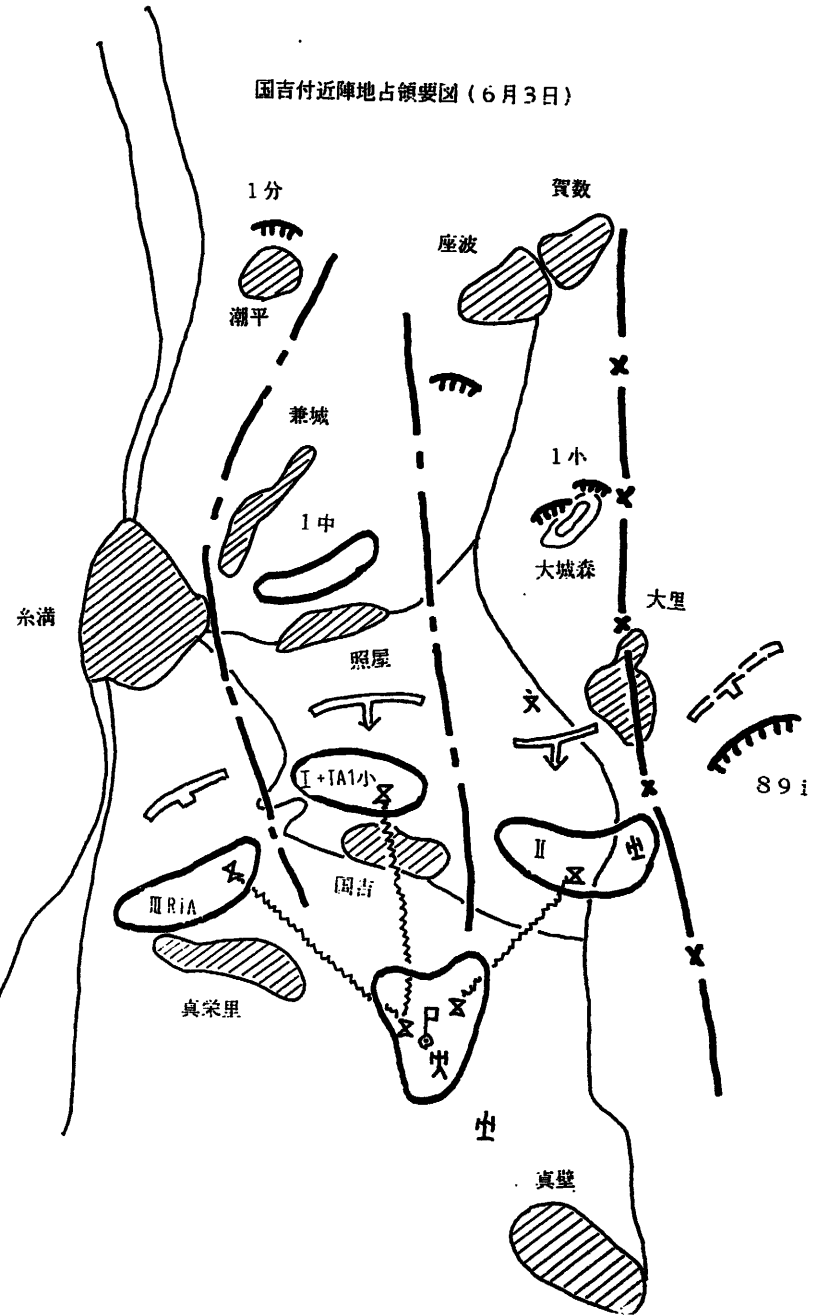
(3) 6月10日より我が主陣地の前に敵現出し激烈なる戦闘を惹起す

敵は水陸両用戦車40両を以つて糸満沖輸送船より兵器弾薬、糧まつ資材等の却下集積を開始す、集積地は糸満北側本道付近及び潮平及び潮平南側付近、賀数北側東西高地線に逐次砲戦車部隊の進入を見る、敵の攻撃重点は当初右第1線と判断せられたりしも最初中第1線に指向せられ、ついで左第1線に指向せらる

国吉付近陣地占領要図(6月3日)



1:2.5万



~5、て
して将校

月3日
月28日
く陣地占

FL, 2
第3大隊

に対して
数、潮平

資材等の
近、賀数
第1線と
1せらる

(4) 6月12日に至り戦車を伴う敵の攻撃はいよいよ猛烈となり各正面とも激闘を交え戦果極めて大なるものあり、將兵の士氣極めて旺盛なるも装備極めて不十分なる為之を撃滅し得ざりしは遺憾なり、殊に国吉正面は敵の重点正面にして其の戦闘は頗る凄惨を極めたり

(5) 6月13日 師団命令により左第1線たる第3大隊陣地を22iに移譲し第3大隊をして第1大隊の左翼に連携し陣地を占領せしめ且つその他一部の配備変更をなす其の状況左記要図の如し

(6) 爾後全線共に將兵の勇戦敢闘に依り現陣地を確保し士氣極めて旺盛なり

6月15日第3大隊/22i (予備隊) の1中隊を師団命令に基づき89iに配属す、又同日第3大隊/22i (1中欠) をして中核台 (連隊本部高地) を占領せしむ

6月16日 野戦倉庫今井主計大尉以下を配属せらる

(7) 6月17日 午後敵は主力を以つて左翼22i正面を突破し中街道方面より真栄里東端に進出すると共に73高地の22i連隊本部を突破し我が中核台を包囲する態勢に示せり

6月18日より各大隊とも敵の重囲を受け最後の兵に至るまで連日激闘を続け多大の戦果を上げたも死傷も又極めて大なるものあり、爾後連隊本部陣地たる中核台は戦車10数両を有する優勢なる敵の攻撃を受け連日これを撃退し戦果を収めたり、第1大隊も亦国吉西方より其の背後を攻撃せらるるに至り6月19日第2大隊生存者は大隊長金田少佐以下僅かに26名となり最後の斬り込みを実施すべき無電あり、爾後連絡途絶す、其の状況要図左の如し

(8) 中核台を死守し最後まで陣地を確保する目的を以つて6月20日第3大隊を以つて敵の重囲を脱し中核台を占領せしむ、此頃敵の攻撃は愈々熾烈を極め多大の戦果を収めると共に死傷続出す

(9) 6月20日左記要旨の師団長訓示を受く

訓示要旨

師団はここに組織的通信機関破壊せられ、統一的指揮を実施し得ざるに至りしを以つて各部隊は現陣地付近を占領し、最後の兵に至るまで敵に出血を強要すべし、決して敵の虜囚となり恥を受くるなかれ最後の忠節を完うすべし
連隊長も亦右要旨に準じ訓示を与え部下を戒むる所なり

(10) 中核台障地は連日能く健闘せるも戦闘力減耗し6月22日夕刻に至り遂に敵の重囲を受くるに至れり、第1大隊連絡は此頃より途絶するに至れり

(11) 爾後各部隊は現障地を根拠として連日敵障地に対し斬り込みを実施し多大の戦果を取めたり、此の頃敵は摩文仁、喜屋武付近に迫り彼我激闘しあるもの如し

(12) 連隊は師団長訓示に基づき最後の一兵に至る迄敵に出血を強要すべく連日に亘り斬り込みを実施しあり、8月15日に於ける部隊の配置左記要図の如し

(13) 8月29日 敵は8月25(15?)日、日本が連合国に対し全面的降伏せりと理由を以て抑留を申し出たるを以つて之に応じ抑留せられるに至る

8月28日 夜武勲赫々たる光輝ある軍旗を処理し奉る

(14) 戦訓事項別紙第1の如し

(15) 全戦闘間戦果の概要付表第2の如し

(16) 戦闘間確認戦死者人員の概要付表第2の如し

(17) 戦闘間負傷者人員の概要付表第3の如し

(18) 生存人員の概要付表第4の如し

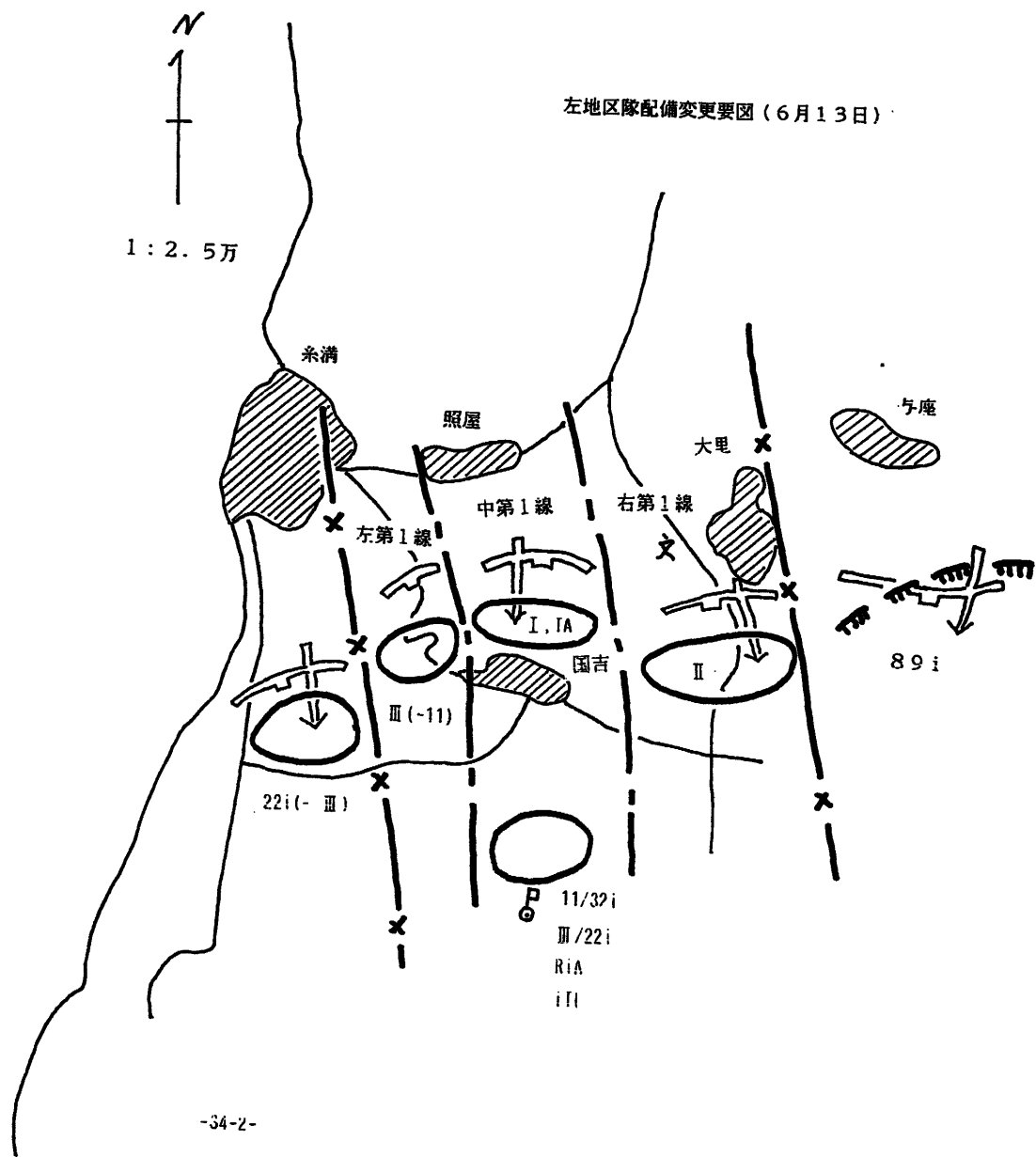
(19) 戦闘間生死不明者の概要付表第5の如し

(20) 勅令前投降者人員の概要付表第6の如し



1:2.5万

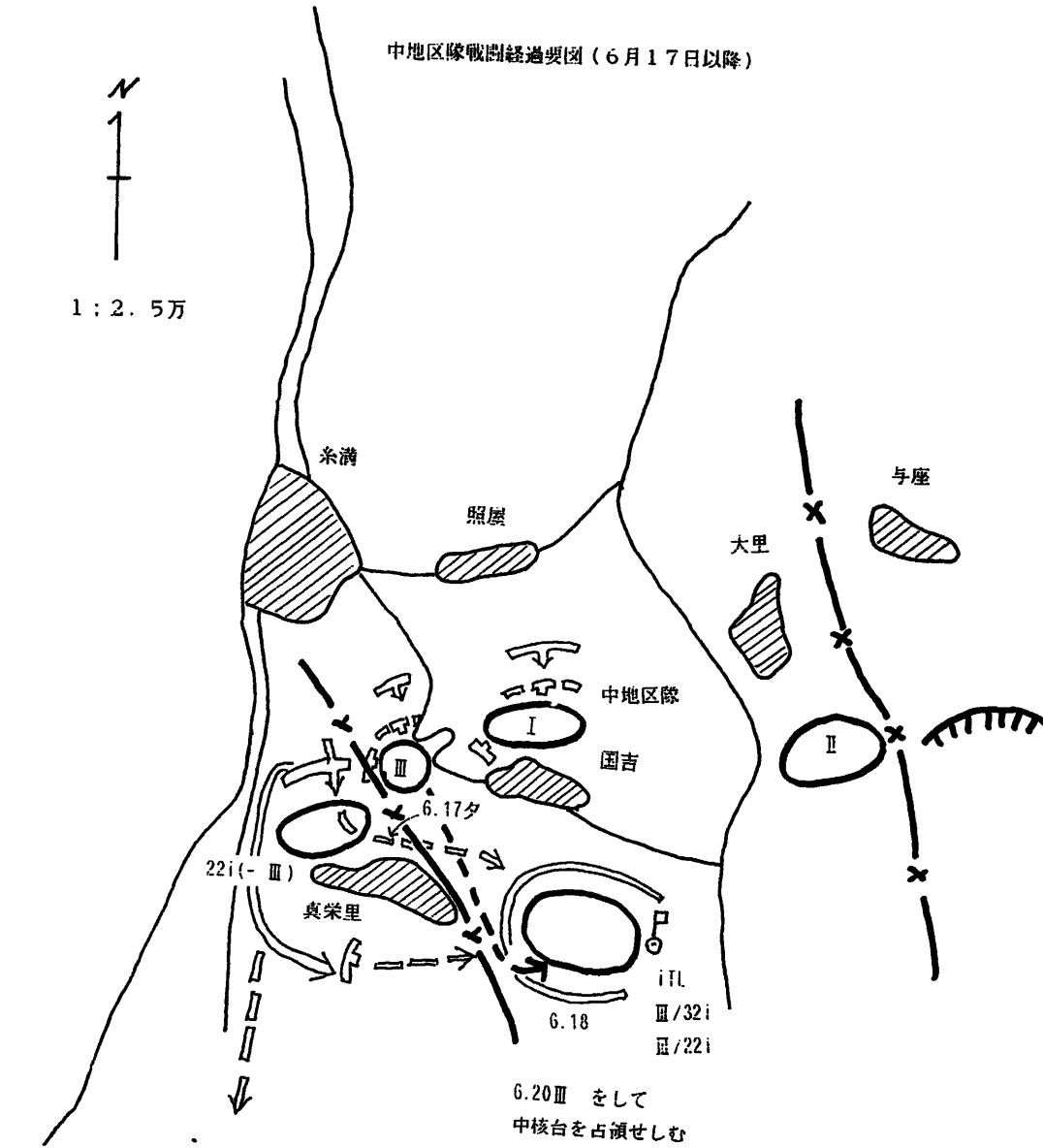




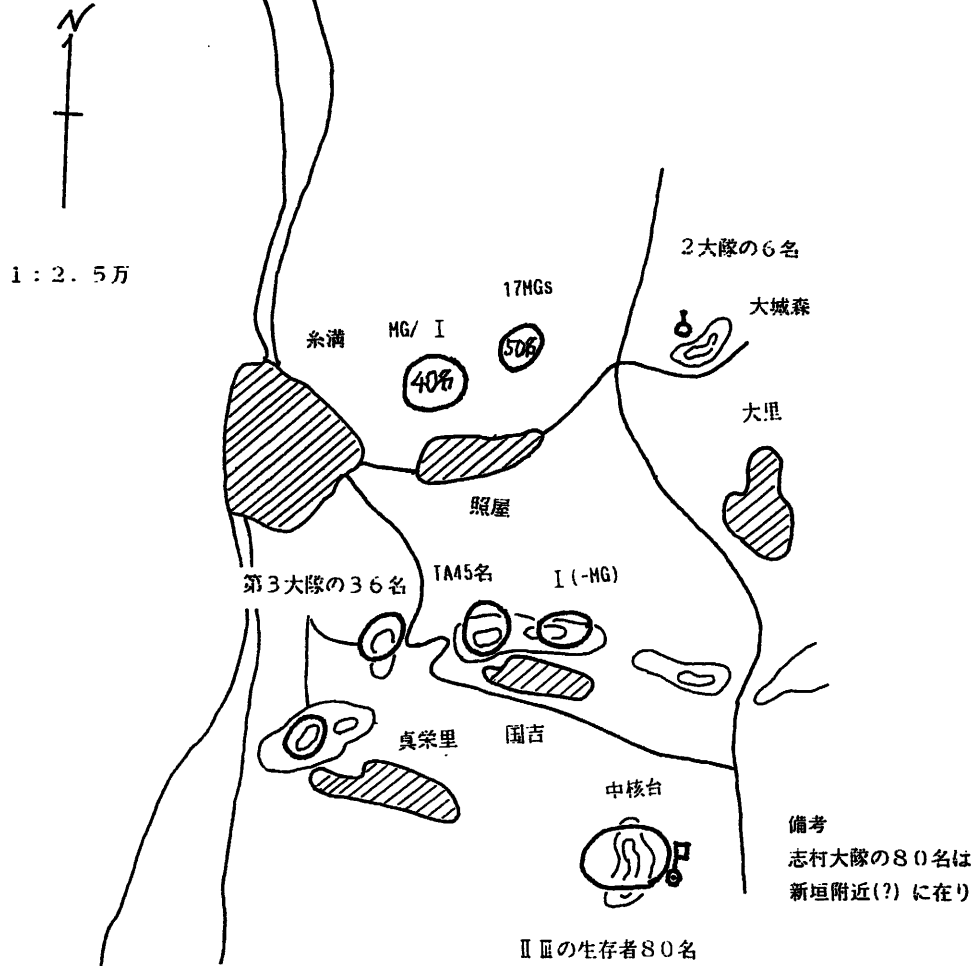
中地区隊戦闘経過要図 (6月17日以降)



1 : 2.5万



生存者配置要図



付表第1 戦闘間戦果の概要

戦闘地域	人員殺傷	TKかく座 炎上	火炮破壊	車両破壊	MG破壊	燃料缶 幕舎
小波津付近	400	14	1	6	4	
前田付近	3200	36	6	6	10	60
首里付近	2970	10	1			
津嘉山付近	200					
国吉付近	807	17			4	50
合計	6379	77	8	12	18	110

摘要 小波津付近の戦果は伊東大隊の戦果

付表第2 戦闘別戦死者人員概数表

戦闘地域	将校	准士官	下士官	兵	計
小波津	4		19	115	138
前田付近	32	8	75	329	444
熊原付近	7		30	116	153
首里北側付近	18	3	75	325	421
国場川付近		1	4	15	20
国吉付近	27	2	98	349	486
出動前		1	1	10	12
その他	2	4	54	627	687
合計	100	19	355	1897	2371

賞 詞 写

歩兵第32連隊

同配属部隊

独立機関銃第3大隊

独立機関銃第17大隊

独立速射砲第3大隊第1中隊

独立第26部隊

師団通信隊の1分隊

工兵第24連隊の1分隊

右昭和20年5月上旬師団の敵第62軍団に対する総攻撃作戦に参加する連隊長陸軍大佐北郷格郎統率の下主として棚原前田付近に戦闘師団の左第1線連隊として優勢なる敵に対し至難なる状況を克服し善戦善謀能く昼夜に亘り猛攻を敢行して敵後統部隊の出撃の初動を破碎し師団全般の攻勢を容易ならしめ大に威武を宣揚す

特に第1大隊は棚原西北側高地進撃の命を受くるや敵の混乱に乗じて一挙に突入疾風迅雷同地に進出して敵に甚大なる脅威を与え第2大隊第3大隊亦前田付近師団左翼の要衝に痛撃を加え更に独立第26大隊は第1線大隊に勇猛こん随して之式威力を加え共に師団の攻勢作戦に寄与せる所極めて大なるものあり

移譲は連隊長の卓越せる指揮統率の下武勲真に他の模範とするに足る

依ってここに賞詞を附与す

昭和20年5月10日

第24師団長 陸軍中將 從四位 雨宮 巽
勲一等

沖縄作戦に於ける歩兵第89連隊史実史料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

歩兵第89連隊史実史料

第1部隊履歴の概要

1. 昭和19年7月8日
1. 昭和19年7月17日
1. 昭和19年7月17日
1. 昭和19年7月23日
1. 昭和19年8月1日
1. 昭和19年8月5日
1. 昭和19年8月10日
1. 自昭和19年8月10日
1. 至昭和19年12月9日
1. 昭和19年12月10日
1. 昭和19年12月10日
1. 自昭和19年12月11日
1. 至昭和20年3月22日
1. 昭和20年3月23日

動員下令満州国東安省東安
動員完結
東安省東安出発
下関上陸、翌4日別府到着
門司港出帆
沖縄本島那覇港上陸
中頭郡平良川到着
右地区に於ける陣地構築並びに同地付近の
警備
島尻南部転進の為平良川出発
島尻郡東風平村到着、同地区の陣地構築並
びに防備
東風平村にありて陣地構築並びに陣地防備
に任ず
沖縄本島一帯に対する敵機の爆撃開始甲号
戦備下令同日より戦闘記備完了す、